

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		2/28-3/7	3/7-3/14	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.097	0.075
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.035	0.043
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.065	0.037
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.079	0.045
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.056	0.092
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.037	0.043
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.052	0.040
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.076	0.037

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		2/28-3/7	3/7-3/14	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.066	0.031
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.035	0.014

検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第81回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(平成29年2月28日~平成30年3月14日)

平成30年2月28日~平成30年3月14日の間の南相馬市における大気浮遊じんに含まれる放射性セシウム137の濃度は、全測定値の平均値が0.053mBq/m³と低い値でした。お気づきと思いますが、最近、1年間以上に渡って、この程度の放射エネルギーで推移しています。この値は、我が国で日常的に観測される大気浮遊じんに含まれる全放射エネルギーの変動域内(0.3~0.8 mBq/m³)にあり、大気浮遊じんに由来する放射エネルギーは、事故前の自然放射能状態近づいてきていると言えます。